



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済
©1984 精道教育促進協会 (芦屋)三・三四五二 芦屋市船戸町12-6

教皇様の叢

聖ヨゼフの模範

父親不在の社会を変えよう

本日、教会は聖ヨゼフをたたえて祝います。義人ヨゼフはナザレトの慎ましい仕事場で、聖家族の生活を支えるべく手仕事に励みました。それゆえ、きょうは特に勤労者の日と言えます。聖ヨゼフと同じく、家族を養うために汗を流して働く労働者、農夫、大工、漁師のみなさん、陸と海の働き人であるみなさんに、聖ヨゼフの模範に倣ってくださるようねがいつつお話しします。同じ経験をなさったイエズスの養父はみなさん方の問題を理解し、悩みに耳を傾け、善き未来建設のために力を尽くすみなさん方を正しく導いてくださいます。聖ヨゼフが信仰と祈りの人であったことは周知の通りです。典礼は詩篇八十八の神のおことばをヨゼフにあてはめています。「彼は私に向かつて、『あなたは私の父、私の神、私の救いの岩』というだろう。(27節) たしかにヨゼフは一日の仕事の間、度々思いを神に上げ、祈りや仕事の疲れをささげ、光と助けと慰めを願いました。何度もそうなさったのです。

この聖人は全生涯にわたって神に嘆願し続けたように思われます。「御身は私の御父です」と。そうして特別な恩寵を得ました。神の御子がこの地上で聖ヨゼフを父と呼ぶようになされたのです。ヨゼフは信仰にみちた熱烈な心で、御父よ、と祈り求めました。そして、イエズスはかたわらで、大工道具を使って働き、ヨゼフをお父さんと呼んでいたのです。深い神秘です。キリストは神として、至聖なる三位一体の内奥にあって直接神の子の身分を経験しておられました。人間としては、養父ヨゼフを通して子の体験をなさいました。ヨゼフはヨゼフで、均衡のとれた男らしさ、洞察力、勇気など、よい父親が備えている資質をフル回転させて、成長する子供を支えました。ヨゼフはそのような資質を「天と地とのすべての家族の元である御父から受けたのです。(エフェソ3・15)

父親の重大な使命を、子供と同等の関係を主張して放棄したがる父親が少なくありません。その結果は、子供から青年への変わり目の、不安定な状態を無事乗り越えるためにぜひとも必要な、心理的精神的ささえを子供から奪い取ることとなります。「父親不在の社会」に入ったと言った人がいます。父親としての任務を、ともに遂行できる父親が切に求められていることは、日増しに明らかになっています。真剣さと優しき、厳しきと理解、権威の行使と仲間のよしみをうまくかみ合わせて子供を育ててこそ、子供は調和のとれた人間に成長していき、恐れを克服して、人生の未知のことさらにも勇敢に立ち向かってゆくことができるのです。

両親と子供の関係

ところで、父親のみなさん、子供たちは無意識のうちに、あらゆる環境の中で、父親に期待していますが、その期待に応えるにはどこから力を汲みとればよいのでしょうか。聖ヨゼフが教えてくれます。答えは、全ての父性の源である神です。聖書が示す、神の人間に対する接し方にならうのです。神にこそ、子供の養育過程において、あらゆる問題に対処してゆく父親のモデルを見出すことができましょう。子供たちを不安定さと孤独のなかに置き去りにしたり、子供の自発性を窒息させたりせず、また、未熟な人格を無視することなく子供に対する術は、神から学ぶのです。

聖母と聖ヨゼフの模範

ヨゼフと聖母マリアは両親のもつべき権威を放棄したりはなさいませんでした。イエズスについて、福音書は次のように意味深長な語り方をしています。「……二人に従って生活された。(ルカ2・51) ナザレトの家がみることのできた、建設的な」従順です。福音書は続けます。御子は、その従順ゆえに「神と人との前に、その知恵も背丈も寵愛もますます増していかれるのだった。(ルカ2・52) ユダヤ民族の宗教的社会的習慣をおしえ、長年の間につちかった大工仕事の技術を手ほ

どきしながら、ヨゼフは、成長してゆくイエズスを導き育てました。本日が強調したのもこの点です。すなわち、聖ヨゼフは自分の熟練した仕事をイエズスに教えました。神の御子はヨゼフと働きを共にし、見聞きしながら大工道具の使い方を習得し、養父の模範にならって熱心に働いたのです。

仕事の価値

これは大切な教えです。神の御子がみずからすすんで、人間に仕事の仕方を教わろうとなされた。ということとは、仕事には、人間自身と人間完成のための大きな意義がある、倫理的価値があるということです。回勅『働くことについて』で次の点を強調しました。働くことを通して人は天然自然を変革して自分の需要に適応させるだけでなく、人間として自分を充実させ、いってみれば、『もっと人間』になります。(9番)

どのような種類であれ、仕事の尊さを認めないわけにはゆきません。個人や家族、社会において仕事の結果が役割に気づかぬわけにもゆかないのです。ところが、残念なことに、人間はしばしば欲望や利己主義にとらわれ、知的肉体的能力を人間の尊厳に傷をつけるような条件のもとで酷使してきました。そして、労資関係がこのように悪化するにつれ、当然の結果として、労働者の正当な権利を守るための労働組合が現われてきます。(……)

「私はあなたを多くの民の父とさだめた」(ローマ4・17)、と先ほどミサ聖祭の第一朗読で読まれたばかりですが、これは、子もなぐ年老いたアブラハムにおおせられた神のお言葉です。典礼はこのことばを、血のつながった子孫のない聖ヨゼフに当てはめています。聖ヨゼフの生涯をふりかえっている私たちに、なせそうするのか、そのわけがよくわかります。とりわけ、ヘロデの迫害下で、イエズスとマリアのために摂理の特別な道具とな

ったのち、聖ヨゼフは、「教会と全人類の生活の中で、父としての使命を果たしつつつておられます。」

聖ヨゼフへの信心

「多くの民の父」という典礼中のことばに勇気づけられた世界中のキリスト信者は、聖ヨゼフに、みずからの悩みを打ち明け、ご保護を願うため、他に類をみない、かぎりない父性愛に信頼しています。

信頼の心で聖ヨゼフをごらん下さい。先祖代々から根づいた篤い信心を保ちつつつておられる皆さん、教区と教会内で勇気あるキリ

ストの証人たらんと努める信徒にとつて、ヨゼフこそ、この上ない模範ではありませんか。特に、神に全てをささげる司祭、修道者のみなさん、どうか聖ヨゼフに助けを求めてください。聖ヨゼフの汚れなき童貞性と精神的父性こそ、みなさん方の理想像ではないのでしょうか。イエズスの養父は、黙想と祈り、神と教会とに約束した忠誠を愛する心、またたとえ人知れずささやかではあっても、み摂理によりいま自分のいる共同体のために、無私の心で、全てをささげて働くことを教えてください。聖ヨゼフの模範という光に照らされて、慎ましいもの、目立たない事柄の

病気や苦しみの試練

すすんで十字架を受け入れ、

勇気をもって担うことを、
健康な人々に教えてください



私のオーストリア滞在期間をすべてみなさん方のためにお捧げします。みなさん方を力づけたいと望んでおられるキリストの使者として、また、みなさん方と同じように数週間苦しみを体験した者として、共にひとときを過ごしたいのです。測り知れない神の御働きのもと、医学の技術と熟練した看護をうけて私は健康を回復することができました。そして今、健康な人間として皆さんの前に立っています。しかし、他人としてではありません。病に伏す人と健康な人とを隔てる溝をつくらないこと、私たちが一丸となつてこのゴール目指して戦いたいものです。

なときには、みなさん方のお救しをお願いします。たしかにみなさん方は、私たちを、私たちの援助と看護、手と心が必要としておられます。けれど私たちにもみなさん方が必要なのです。みなさんは多くのものを受けておられるが、同時に多くを与えてくださっています。

みなさん方の病のうちに、人間生命のもろさや危険性、限界を垣間見ます。すべてを自分の望みどおりにできるわけではないことや、やり始めたことを何でも完成させられるとは限らないことをも教わります。過去のすばらしい経験や行なった善いわざをあれこれ思い出してしあわせをかみしめるのは当然でしょう。それらについては感謝せねばなりません。ところで、いま皆さんは、新しい光のもとにすべてをごらんになり、以前とは違った見方

値うちを学び、良さを味わうことができるでしょう。大きな見せかけや鳴りものなしにやり遂げられるこれらのことは、こころの奥で、決定的な効果を生みだしてくるのです。めまぐるしく移り変わる社会の中で、ときには悲しむべき影響を憂慮しながら生きるみなさん、どうか、ナザレトの聖家族に目を向けてください。聖ヨゼフが注意深く心を配りつづけた聖家族は、愛の力で毎日に理解を深め合う人々が、家族生活をいとなむ上でのモデルです。イエズス、マリヤ、ヨゼフにより頼むならば、教会共同体に属するみなさんの家族は、あらゆる生活環境の中で互いに自らをさ

さげあうよろこびと、試みのときの家族の一致、さらに、私たちに測り知ることはできないものの、神のみ摂理、つまり神の全能に、全幅の信頼をおく人の心の静けさを得ることができるとしよう。

「あなたこそ私の父」。聖ヨゼフにならつてみなさん方も、天の御父に、熱心に、たゆみなく、祈り求めてください。そうすれば、みなさん方も聖ヨゼフと同じく、詩篇の次のようなことばが本当であることに気づくでしょう。「永久に私は彼への愛を保ち、彼への私の契約は変わることはない。」(詩篇88・29)

(一九八三・三・十九)

みなさんは私たちの仲間

さて今度は、年齢の重さ、高齢からくる弱さや限界を身にしみて感じておられるみなさん方におはなしします。みなさん方にも私たちの助けが要ります。ところが、贈りものをさすけてもらっているのは私たちの方なのです。私たちが今日築いているものは、みなさん方のこれまでの働き、功績、私たちのためにしてください。投資のおかげです。私たちがみなさん方の経験と判断力を必要としています。いままで、そして今なお示しつつつてくださっている信仰の模範が必要なのです。心を閉ざさないでください。家庭の外に孤立したり、世間に扉を閉ざしたりするのは望ましくありません。みなさん方は私たちの仲間です。高齢者の方々のつながりを断とうとする社会は、社会のみなもとを否定するばかりか、その未来までも失ってしまいます。

病人や高齢者は社会のアウトサイダーでは

説教・講話・書簡等の抄記

ありません。社会の中心をなす存在です。私たちはみな、みなさん方のおかけをおこぼっています。人類がかかえている多くの悩みや心配のために、祈り、苦しみをささげてください。いるみなさん方全員に、いま心からあらがとうと申し上げます。もちろん健康な人も祈らなければなりません。「けれど、みなさん方の祈りには特別な効果があるのです。」

みなさん方は、友人や知り合い、故国、そして神の助けを必要としている人々のために、あふれんばかりの祝福を天に祈り求めることがおできになります。この世において、真に神を賛美し礼拝するには、苦しみのさ中においてなお神の知恵と愛とを信じ続ける心をもたなければなりません。苦しみをがまん強く耐え抜くこと、それ自身が祈りであり、豊かな恩寵のみなものです。だからこそ、みなさん方全員にお願いします。どうか、みなさんの病室を教会に変えてください。キリストの十字架像をごらんになってください。私たちのために祈りしてください。犠牲をささげてください。聖ペトロの後継者である私の仕事のためにもお願いします。みなさん方の霊的な助けを格別に信頼し、一人ひとりに心からの祝福をおくりします。

きょうの集いにあたり、幼少の頃から病に苦しみ、肉体的精神的能力が充分に発達しなかった方々のことを特に考えています。事故や潜在性の病気のために重度障害者となった方々のことを考えています。年老いてゆくにつれ自分のまわりや同時代の人々との接触をなくしている方々、言いかえれば、自分たちの人生の知恵を伝えることも、人々の示すやさしさを理解することもできなくなった方々のことを考えています。このような根本的能力を奪われた人々を目にして、私たちは自問しなければなりません、「人間の尊厳とはそもそもどういうことなのか」と。

神が人間をお造りになったこと、神が人間

の存在をよしと思ひ、受け入れてくださったこと、神は人間を完成に導いてくださること、こういう事実から人間の尊厳は生まれます。このように考えると、人間生活のすべては未完で不充分であり、完璧な神の御手に頼りきっていることがわかるのではないのでしょうか。健康な人も病に伏す人も、いきいきとした人も疲れている人も、動ける人も障害をもつ人も、精神活動の活発な人も止まっている人も、神は受け入れてくださいます。これが父であ

●子供の「コラム」——教皇さまとの約束

イエズスさまの

よいおともだちであるように どりょくしていきますか

1 きょう、わたしは、おさないイエズスさまのかんむりともいえるみなさんにとりまかれて、たいへんうれしくおもっています。みなさんもうれしいでしょう。

もうみなさんとはよくこそんじのはずですが、みなさんはわたしのきにいらのこであることとを、もういちどもうしあげておきたいとおもいます。

みなさんとおなじように、せかいじゅうからあつまったこともたちに、わたしはなんどもおなじことをくりかえしました。カトリックきょうかいのような おおきなかぞくには、おおせいのわかいひととや、ととったひととがいますが、そのなかでみなさんは、いちばんかわいくて、たいせつなのです。

どうしてか、わかりますか。

てんのおんちは、あいのこころから、わたしたちをおつくりになりましたが、そのかみさまのすがたを、いちばんじゅんすいに、いちばんはつきりと、いちばんくつきりとうつつしているのは、みなさんだからです。

らせられる神の「承諾」なのです。この「承諾」のおかげで、私たちは完成へと一歩ずつみちびかれ、生活は生きる価値をもってきます。(…)

病に伏す人や老人、障害者、看護の必要な方々を見ると、私たちがお互いにどれほど依存し合っているか、いかに強い絆で結ばれているかを、はつきりと知ることができます。このような方々は、私たちの連帯責任や隣人愛を試す挑戦となります。病人がもはや理解

力を失い、受ける看護に感謝できなくなれば、奉仕する人たちの愛がどれほど無私的で献身的であるかが明らかになるでしょう。病气や苦しみはいつも厳しい試験です。そんなことは矛盾だと感じられるかもしれません、病人がいなくなってしまうたら、社会はもっと貧しくなるにちがひありません。実際の慈悲や無私の心、ときには英雄的な行為や愛に欠けた社会になってしまうからです。

(オーストリアの病院で)

みなさんはイエズスのおさないともだちです。えいえんのおんこは、わたしたちのすくいのために、わたしたちとおなじひととなってくださいました。みなさんは、そのおんこともだちなのです。みなさんとおなじこどもになって、せかいにあいとしんせつとへいわをあたえてくださったイエズスさま、そのイエズスさまのともだちになったのがみなさんです。

かみのおんこ

2 ローマのひととびとが、こころからあいし、とうとんでいる イエズスさまのごぞうをながめています。みなさんはまいねん、ごりょうしんといっしょに「アラチエリ」へのかいだんをのぼって、イエズスさまにあいをあらわしにいきますね。

きょうは、わたしきょうこも、みなさんといっしょにイエズスのごぞうをながめ、うやまっています。

みなさんのうたやし、かいたものをきいて、こころうたれました。みなさんはそれをおさなごイエズスさまにささげましたが、このよでイエズスさまのかわりをするわたしきょうこにも、ささげてくださいました。ところで、きょうここのしごとは、おんこがこのよにおあたえになったしんりとあいをひとびとにおしらせすることです。みなさんのささげものに、ありがとうをもうします。かわいいうたいて、しじん、はいゆうのみなさん、そして、しどうしてくださったかたがたみなさん、ほんとうにありがとう。

3 さて、こんどは、イエズスさまのみなにおいて、みなさんにたずねてみたいとおもいます。しょうじきにこたえてみてください。

■みなさん、おさないイエズスさまをこころからすきになっていきますか。

■イエズスさまにみなさんのこころをしいしてほしいとほんとうにのぞんでいませんか。

■イエズスさまがせかいをしはいてくださるようのぞんでいますか。

■あがないのとくべつせいねんにあたり、すべてのこどもたちとおとなのひとたちを、イエズスさまがもつといいひとにしてくださるよう おねがいしていますか。

■せかいと、すべてのくにくに、すべてのかぞくのうえに、しゅのしゆくふくとへいわがくだるよう ねがっていますか。

不変の教え

わたしきょうごうは、みなさんがいじょうのようなしつもんどのれにも、おおきなこえで「はい」と、こたえることができるのをしています。まわりのかべがゆれるくらいのおおきなこえで、「はい」といえるとおもっています。

もうすこししつもんをつづけたいとおもいますから、こんどもしよじきにこたえてみてください。

■みなさんはイエズスさまにあいをしめすため、いいこになろう、もつといいこになろうとけっしんしていますか。

■いのりとへんきょうときょうだいあいのじつこうにどりよくするきむを、もつとちゆうじつに はたしてくれますか。

■りょうしんやめうえのひとびとにもつとちゃんとしたがうけっしんをしていますか。

■おとなになっても、ずつとつづけてイエズスさまのいいおともだちであるよう、どりよくするけっしんをしていますか。

■きょうかいときょうごうのためにいのるけっしんをしていますか。

みなさんはきつとこのようなくそくをししてくださいでしょうか、もういちど、ありがとうをもうします。

ほんとうにありがとう。おきなごイエズスのみなにおいて、みなさんのかぞくに、わたしのころからの しゅくふくをおくりませう。

ここにいるみなさんだけでなく、テレビやラジオできているひとたちにも、かんしやとしゅくふくをおくりませう。

おきなごイエズスのかわいいともであるみなさん、みなさんとせかいじゅうのかぞくをしゅくふくします。

さあ、みんなでのりませう。このいわいのあと、「アラチェリ」のおきなごイエズスのごぞうで、みなさんにしゅくふくをさしあげませう。

(一九八四・一・九)

特別委員会任命

教会法典正式解釈

先日、新教会法を發布するにあたり、「教会が第二バチカン公会議の精神にそって発展し、また、この世において救霊の仕事を果たすために、教会法典が効果的な手段となつてくれるように」という希望を述べました。

この目的を達するために教会法を守らなければなりません。すぐに従う意志だけでなく、教会法典の専門的かつ正確な知識が必要となります。法律は、「すべてを拘束する力をもっている」ので、明確な点やあ

1 「天の元后、よろこび給え、アレルヤ。」

古くから歌われている美しい交頌を間もなく私たちが歌いますが、これにはよろこびを表わす「アレルヤ」が到るところにちりばめられていて、御子のご復活を主の御母がおよろこびになっている様子がとてもよくわかります。またマリアと共に、マリアの中に、教会と私たち全員のよろこびをも歌っています。

福音書は、復活されたキリストが聖母にご出現になったかどうかにかんしては、何も述べていません。この得も言われぬよろこびの秘義は、神秘的沈黙のベールにかくされたままなのです。けれどもご出現になったことは確かです。最初に贈られる御方である聖母が、特に御子の十字架のかたわらにおられたこと(ヨハネ19・25)を思えば、復活されたキリストに出会うという特権もまたお持ちだったことに疑いの余地はないでしょう。キリストの御血で救われた他のすべての被造物の味わう、どんなよろこびよりも強烈でユニークなよろこびを御母は得ることができたにちがいあり

いまいな事柄を含んでいてはなりません。とは言え、法律の特殊性を考えると、法律を個々の事例に適用するにあたり、種々の問題が生じてくるのを避けることはできません。


さらに、教会法典の条項が相互に一致していなくてはならないわけですから、時には、立法者(法典起草者)の考えや意図に疑問が生じることもあります。ところで、明確でない点や疑問を除いて、法規の真の意味を明らかにするためには解釈が必要となります。

そこで、旧教会法典の真正な解釈を委員会に委ねた、先任者ベネディクト十五世になら、確かな知識にもとづき、慎重に考慮した結果、教皇自発教令により、特別委員会を

2 マリアは主の秘義の教え手であります。

マリアの中に、マリアと共に行うことによって、私たちは十字架の意味を理解します。このように、マリアのうちに、マリアと共に、私たちは復活の意義を理解し、こうした経験を経て得られるよろこびを味わうことができるのです。

マリアの歩まれた道が 私たちの道となり ますように



うけることにしましたが、本日ここに正式に設置します。この特別委員会は、教会法典正式解釈委員会」と称し、以下の規定に従い、活動するものとします。

1、教会法典ならびにラテン教会全体のための法律を真正に解釈するのは、教皇の批准を条件として、本委員会のみとする。

ただし、重要事項に関しては関係聖省の意見を聴取する。

(続いて、委員会の構成員、顧問グループ、任命と任期、手続方法などについて規定されている。)

本自発教令をもって、教会法改定委員会および第二バチカン公会議の諸教令教皇庁解釈委員会を廃止します。(一九八四・一・二)

ない、この上なく純粹なよろこびへと変わってゆきました。それは、御子が罪と死とに勝利をおさめたからなのです。

第二バチカン公会議が教えるように、マリアは「従順、信仰、希望、燃える愛をもって、人々の超自然的生命を回復するため、救い主のわざに全く独自の協力を(『教会憲章』61)しました。そして今、マリアは「まだ旅を続けている自分の子の兄弟たち、危険や困難の中にある兄弟たちが、幸福な祖国に到達するまで、配慮し続け(同上62)てくださいます。

兄弟姉妹のみなさん、マリアの歩まれた道が私たちの道となりますように。マリアのよろこびが私たちのよろこびとなりますように。御子の復活をよろこばれたマリアが私たちのよろこびの源であるように、人々にマリアのよろこびをもたらす約束をしましょう。贖い主キリストが私たちのなかに超自然的生命を形造ってください、幸せに満ちた祖国での永遠のよろこびに到らせてくださいますように。天の元后、マリアと共に!

(一九八三・四・十)

『教皇様の声』ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 ■毎月 十日発行 ■定価 一部六十円送料六十円 ■一年予約七百二十円送料七百二十円 ■二十部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戶 3-72393